

# 9月号

## School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン

2016. 9. No.102



# Dream通信

## 大好きな里親様へ贈り物 それぞれの新しい道へ



里親様、お客様から手紙が届きました！

皆様、こんにちは。夏の暑さもようやく落ち着き、少しずつの訪秋の訪れを感じる頃でしょうか。

カンボジアの子どもたちは、8月中旬から夏休みに入り、園の補習授業や塾では10月から始まる新学年に向けての予習も始まっています。また今年も去年に引き続き、8月下旬からSAJファームにて農業実習をさせていただくことになりました。今年の夏は子どもたちが心身ともにパワーアップすることを期待しています。

さて、今回のドリーム通信では里親様との手紙の交流について、子どもたちの卒園と退園についてお伝え致します。

### 里親様との手紙の交流

子どもたちは年に3回里親様に学校の成績の報告と手紙や絵をかいています。

子どもたちにとって手紙は里親様と繋がる事が出来る特別なものなので、毎回手紙を書くことをとても楽しみにしています。子どもたちが書く手紙の内容は、勉強、農作業、園での過ごし方、イベントといったものがほとんどで、どうしても毎回同じような内容になってしまいます。それだけでは、里親様が自分の里子がどんな子どもなのかイメージしづらいため、子どもたちには自分の好きなものや苦手なもの、夢について等、もっと自分のことをたくさんありのまま書くようにと伝えました。また小さい子どもたちはまだ文字の勉強中の為、画用紙に絵を描き、そこにお兄さんやお姉さんに手伝ってもらいながら日本語で「ありがとう」と一生懸命書きました。手紙はいつも支援して下さっている里親様に対して、自分たちが出来る精一杯のプレゼントです。里親様には手紙を通して子どもたちのあまの姿を知っていただきたいですし、子どもたちには手紙を書くことで考える力や文章を書く力を身につけてもらいたいと思います。

里親様に手紙を通して子どもたちの成長が伝わるように、これからも思いを込めて手紙を書いていきます。



里親様へ手紙や絵をかきます



感謝の気持ちを込めます



皆に「今までありがとう」と挨拶するサイハー



お世話になった保母さんに挨拶するディナー



SAJ ファームで働くことになったスマイ



園で学んだ事を忘れず、努力する事を約束

## クオイ・サイハー退園 中学3年生卒園

7月29日に高校1年生のクオイ・サイハーが退園することになりました。サイハーは高校に進学しましたが、遊ぶことが好きで学校や塾をさぼり、勉強に付いていくことが難しくなりました。また園を抜け出し友達と遊んだり、お酒を買ったり、夜部屋を抜け出したりと問題も多く起こしてきました。

何度も本人と話し、何の為に勉強しなくてはいけないのか、ルールを守らなくてはいけないのかということをお伝えしてきました。その度に「もうしない」「頑張って勉強する」と約束をしましたが、変わることが出来ませんでした。職員で話し合いを重ね、このまま園に居ることは本人の為にも、他の子どもたちの為にもよくないと考え、退園させることになりました。

過去に高校で勉強についていけず、問題を起こす子どもが多かったことから、中学3年生の高校進学について本人とよく話し、真剣に考える必要があると考えました。そして、今年は3人の子どもが中学3年生で卒園することになりました。

1人目のリン・メイホイは去年から「高校には行かない。溶接工で働きたい」と就職を希望していました。

2人目のプルン・ディナーは「高校に行きたい。」と話していましたが、授業もさぼりがちで成績も良くなく、高校の勉強についていくことが厳しいと判断し、就職の道を選びました。

3人目のチャンラック・スマイも高校進学を希望していましたが、園での成績は学年最下位で努力する様子が見られませんでした。本人は農作業が好きで、以前に「SAJファームで働きたい」と言っていたこともあり、8月19日からSAJファームで働くことになりました。

子どもたちにとって、どの選択が一番良いのかを判断するのはとても難しいですが、その為にも日ごろの関わりを大切にしていかなければいけないと改めて思いました。

それぞれが進む新しい道で、輝くことを願っています。

## 高校3年生卒園

8月22日と23日にポーサット州にて高校卒業試験が行われました。結果は3週間後、試験を終え園に帰ってきた子どもたちは試験が終わるまで一安心といった様子でした。卒園したら園での生活とは違い自分たちで考え行動し、責任をとらなくてはいけないこと、そして今まで支えてくれたすべての人たちへの感謝の気持ちを絶対に忘れてはいけないと伝えました。後悔しないよう一日一日を大切に勉強に励んでほしいと思います。6人全員が自分の志望する大に入学出来るように、そして明るい人生を送ることを心から願っています。